

「聴覚障害児の教育課程」

教育学部 立入 哉

1. 授業の目的と内容

本講義は、聴覚障害児教育の大枠を知り、もって聾学校教員としての資質を備えられることを目的とした授業である。具体的には聴覚障害児教育の歴史、教育方法の変遷、聾学校教育の特徴、幼児児童生徒の各発達期順に教育課程論を展開している。

2. 授業内容とDPの対応に関する調査から

1) 授業の評価に関して

聴覚障害児教育に関する基礎的な段階（免許法必修科目の最初の科目）であるため、知識・理解を求める内容が多い。このため、1 A：教育に関する確かな知識の項は平均で 1.2 と高い数値であった。また、本講義を通して、5 A：専門職業人としての使命／責任感の項も 1.0 と期待していた数値を得られた。

2) 授業時間外学習の促進

(1) 授業ごとのプレゼンに、「Q項目」という行を挿入している。「Q項目」については、授業中に解説せず、時間外学習として自分で調べるよう促す項目である。そして、次週の(毎回の)小テストでは、その「Q項目」に関する問題を出題している。しかし授業外学習(課題)は平均 0.7 時間に留まった。

(2) さらに授業に関係する書籍を複数冊用意し、

研究室のドア前に置いておき(写真)、自由に持って帰って読むようにもしている。これについては最終試験で配置した書籍の内容に関する問題を出題すると予告し、時間外学習を促している。後期全体で5冊の書籍を紹介した結果、自発的読書は 1.6 冊と増大した。今後、動機をいかに高めるかが課題と思った。

(3) 加えて、Moodle を利用し、関連する映像番組を視聴できるようにした。こちらは、視聴端末によって、視聴できた学生とできなかった学生がいたことがわかった。次年度以降、原因の探査と対策を練りたい。

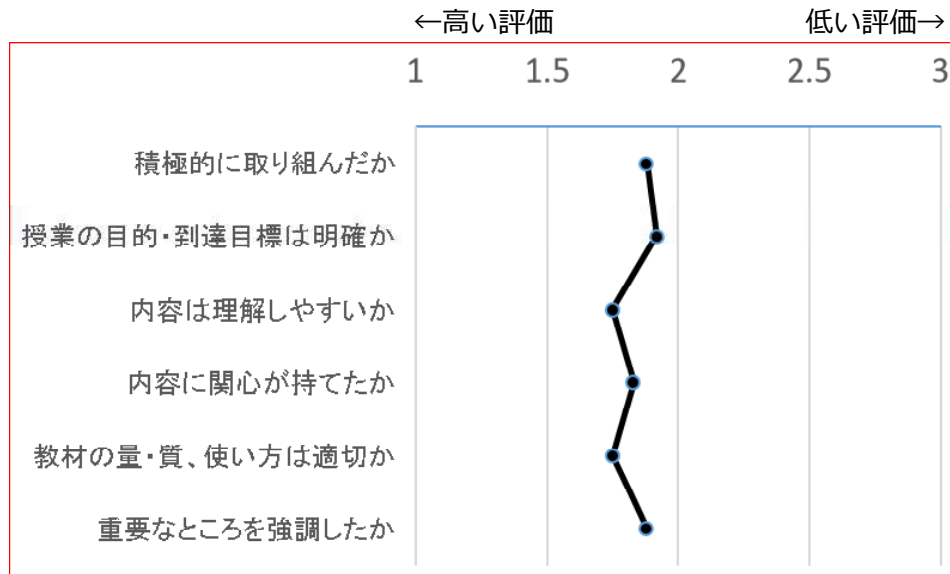


写真：関連する図書やDVDの配置棚

表：授業外学習と自発的読書に関する前年度との比較

	授業外学習 (課題)	授業外学習 (自発)	自発的読書
平成 26 年度	0.75 時間	0.5 時間	0.67 本
平成 27 年度	0.7 時間	1.1 時間	1.6 本

独自書式によるアンケートの結果



凡例（1：強くそう思う、2：そう思う、3：どちらでもない、4：そう思わない、5：強くそう思わない）

1. 成果など

聴覚障害児に関して聾教育のルーツ、補聴器、保護者のことなどがわかった
 聾教育の今までの経緯が良く分かった
 毎回の小テストはしんどかったけど、今、考えればちょこちょこ身についた
 説明がわかりやすく、興味をひかれて良かった
 聴覚障害児の保護者が抱える悩みや、それらへの対策等についての知識が身についた
 多くのビデオと共に、子どもたちの実態、どのような支援が必要であるかがわかった
 聴覚障害教育を時代背景や他の障害との関わりから多面的に学ぶことができた
 要点でない資料があり、その背景に何があるかの情報が載っていたのでわかりやすかった
 聴覚障害児教育の歴史から教育の方法、検査方法など広い知識が身についた
 現実問題をたくさん知ることができた
 聴覚障害児の年齢にあわせた指導内容を知ることができて良かった
 聴覚障害児教育について興味が湧いた、もっと勉強を続けたい
 聴覚障害児を指導するにはどうしたらよいか良く分かった

実際の補聴器を見られたのが良かった
 毎回の小テストで知識が定着できた
 動画が毎回面白かった
 実際の体験談などがからめてあり、イメージしやすかった
 聴覚障害児について全く無知だったが、広く知識を知れたこと（特に歴史）

2. 改善すべき点

発達の人には耳や聴覚についてはわかりにくい
 小テストの範囲が広い
 オーディオグラムについて、Moodleに資料をUPして欲しかった（手近な教科書がないため）

3. Moodle利用について

ビデオを見ることでよりわかりやすくなった
 見ようとしたが、再生できず活用できなかった
 じっくりとムービーを見ることができた
 家のPCでは視聴できなかった
 UPしたことをメールで知らせて欲しかった
 PCでは視聴できなかったが、iPhoneでは視聴でき、役に立った